



◎国語・算数A：主として「知識」国語・算数B：主として「活用」理科は、「知識」と「活用」が混ざっている

#### 【国語編】

##### [教科]

##### 「国語A」

国では、正答率70.0%、都では、72.3%、本校では69.1%であった。

本校では、文の中の主語を捉える問題では、全国よりも9ポイント高い正答率であった。だが、漢字を読む問題では「信念」の読みの正答率が6ポイント低く、書く問題でも、「浴びる」「病院」の正答率が6ポイント低い。また、「文を構成する主語と述語の照応関係」や「話の内容に対する聞き方の工夫」も正答率が低い。

<授業改善のポイント>

##### [読み解く力]

読む能力では、正答率が国55.2%、都59.0%、本校56.8%であった。

コラムの中で筆者が引用している言葉を書き抜く問題では、全国よりも正答率が10ポイント高い。だが、「登場人物の相互関係を捉える問題」や「案内状から必要な情報を読み取る問題」の正答率が低い。

<授業改善のポイント>

日頃から多くの物語文にふれさせたり、新聞で情報の内容をまとめる学習や、資料から情報をまとめる学習を増やしていくことが大事だと考えられる。平成27年度 「全国学力・学習状況調査」結果考察（6年）

## 【算数編】

### [教科]

全体として、正答率は都より7.5ポイント、国より5.3ポイント低いという結果であった。領域別に見ると図形領域が都より10ポイント、国より5.3ポイント低かった。

問題では異分母の分数の減法計算が14ポイント、円の中心と円周上の2点を頂点とする三角形の角の大きさを求める計算が13.7ポイント、それぞれ都より低かった。異分母分数の計算はごく基礎的な計算で国の正答率も80%以上あることから基礎計算力に課題がある。角の大きさを求める問題では円の性質から三角形の等辺を捉え、二等辺三角形の性質から底角の大きさを求めることに課題がある。

角の大きさを選ぶ問題では都には及ばないものの国の平均を1.3ポイント上回った。

#### <授業改善のポイント>

異分母分数の計算の仕方については重要な内容であるので確実に理解できるように継続的に指導することが大切である。指導としては同じ大きさを表す異分母の分数を図や数直線を用いて確認する活動を取り入れるなどして同じ大きさの分数が幾つもあることを理解できるようにすることが考えられる。

円と三角形を組み合わせた図形のように角の大きさや辺の長さなどを正しく求めるためには組み合わせた図形がどのような図形で構成されているか、どのような図形の性質が用いられるかを見出すことが必要である。指導に当たっては、角の大きさや辺の長さの求め方が適切である根拠を明確にすることが大切である。

### [読み解く力]

全体として、正答率は都より6.3ポイント、国より3.5ポイント低いという結果であった。各領域とも低く、量と測定領域が特に低い。図形領域の正答率が知識においては低かったが、読み解く力では図形の性質に基づいた日常事象の問題は比較的よく理解できしており、同じ領域でも問題により差が大きいことが分かる。

問題では、四捨五入して千の位までのおよその数にして計算することについての正答率が都より10.4ポイント、国より6ポイント低かった。位に着目し、四捨五入して千の位までのおよその数にして計算することに課題がある。

#### <授業改善のポイント>

見積もりの目的と関連付けて「四捨五入」「切り上げ」「切り捨て」の用語の意味や処理の仕方について理解を深めることが大切である。そのためには日常生活での経験や興味・関心と関連付けて、概算の用語や処理の仕方を扱っていく。四捨五入によって実際の数に近い数がつくられることを図や数直線を用いて理解できるようにする。【理科編】

## 【理科編】

### [教科]

全体として、正答率は都より2.1ポイント、国より0.5ポイント低いという結果であった。

また、学習指導要領の区分ごとに見ると、「物質」の区分は都より1.6ポイント、国より3.8ポイント高い。一方、「エネルギー」の区分は都より2.9ポイント、国より2.0ポイント、「生命」の区分は都より3.7ポイント、国より2.9ポイント、「地球」の区分は都より4.0ポイント、国より1.7ポイント低い。

さらに、評価の観点別に見ると、「観察・実験の技能」は都より3.3ポイント、国より4.9ポイント高い。一方、「科学的な思考・表現」は都より4.1ポイント、国より2.2ポイント、「自然事象についての知識・理解」は都より1.6ポイント、国より1.2ポイント低い。

よって、本校の課題は「エネルギー」「生命」「地球」に区分される問題、また、「科学的な思考・表現」「自然事象についての知識・理解」として評価される問題にあるといえる。

#### <授業改善のポイント>

本校では観察・実験をしっかりと行い、それに伴う技能が高まっているといえる。今後は観察・実験の後の結果→考察→結論の流れのうち、「考察」の部分を十分に児童に考えさせることで、思考力や判断力・知識量や理解度を高めていく必要がある。また、なぜそのような観察・実験をするのかということを理解させるためにも、予想から仮説を立て、仮説を検証するための観察・実験を考えさせるというステップも重要であると考えられる。

### [読み解く力]

主として「活用」に関する問題では、都より4.1ポイント、国より2.2ポイント低いという結果であった。正答率の低い問題を見ると、「考察して分析する」問題が特に低いということがわかった。

#### <授業改善のポイント>

読み解く力を高めるために、表やグラフにまとめた観察記録や実験結果などのデータと現象とを関係付けて考察する活動を十分に行うことが大切である。例えば、実験で得られた結果だけで分析するのではなく、データから全体の傾向を読み取るなどの視点を与え、自然の事物・現象を関係付けながら考察したり、言葉でまとめて説明したりするなどの学習活動が必要であると考えられる。